

令和元年東日本台風から4年— 暮らしを守る対策を進めています

記録的大雨の傷跡 教訓を未来へ生かすために

令和元年10月の台風第19号(令和元年東日本台風)。複数の雨量観測所で観測史上最高雨量を記録した大雨により、荒川水系入間川流域の都幾川や越辺川では、越水によって堤防が決壊し、甚大な被害が発生しました。あの水害から4年が経ちます。同規模の洪水が発生した場合でも被害が軽減できるように、堤防整備や河道の掘削などを進めています。【県内では死傷者37人、7000戸以上の住宅が被災する大きな被害が出ました(県発表)】



令和元年東日本台風の大雨で、決壊した都幾川の堤防。左側の農地や下流の民家が浸水被害を受けた(2019年10月13日午前、東松山市石橋地先。埼玉新聞撮影)



入間川流域緊急治水対策マップ。多重防御治水の推進と、減災に向けたさらなる取り組みを推進しています
★印の工事の状況は右の写真をご覧ください

地域と連携した入間川流域 緊急治水対策プロジェクト



川越市



東松山市



坂戸市



川島町



埼玉県



気象庁
熊谷地方気象台



荒川上流
河川事務所

令和元年東日本台風で甚大な被害が発生した都幾川、越辺川、入間川において、国・県・市町など地域が連携して「入間川流域緊急治水対策プロジェクト」に取り組んでいます。坂戸市赤尾地区の越辺川では、河道の掘削工事が進捗中で、今年度に完成する予定です。



河道の掘削工事。坂戸市赤尾地区(2022年10月撮影)



河道の掘削工事。坂戸市赤尾地区(2023年1月撮影)

河道の掘削

河川敷の樹木を伐採したり、河川敷を掘り下げたりして、水が流れる断面積を大きくし、洪水時の河川水位を下げて流れやすくしています。引き続きご理解とご協力をお願いします。

